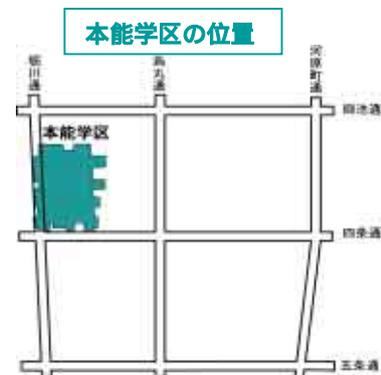


2. 本能学区について

(1) 本能学区のなりたち

三条大路，四条大路，西洞院大路，大宮大路で囲われた区域を平安京造営当時は左京四条二坊（左京永昌坊の第二坊）と称していました。この二坊には小路で区切られた一町四方の町が十六あり，本能学区は堀川小路から以東の九町から十六町と云われた町域がその範囲になっています。当時はこの一町四方で囲われた町域が一つの町内でした。それが庶民の家が道路に沿って建てられ，道路を挟んだ両側を一町内とする現在のような両側町になるのは，今から 600 年程前だろうと云われています。



日本能寺が当地に建設されるのは天文法華の乱の後であり，その頃京都の町は上京，下京の二つのかたまりに分かれていました。当時の本能寺は下京の北西のはずれに建っています。戦国時代も終わり，信長が天下を統一する頃になると町も賑わいを見せ，新しい町が広がって行こうとしています。本能寺の変はそんな世情の中での一件です。炎上後再建された本能寺を，秀吉は現在の寺町御池の位置に移し，一町四方の町域の真中に南北方向の道路を通す都市計画を断行して，現在見られるような道路形態が実現します。

当時はまだまだ百鬼夜行の世の中で，身を守るすべは自らしかありませんでした。町内の辻々には構門を設け，夜の十時には門を閉ざし自らの町を守っていました。江戸時代の初め頃，黒染の源流でもあり，宮本武蔵との決闘で有名な吉岡憲法が，西洞院四条下るに染色業を営みながら庶民に剣術を伝授し，町民は一朝事ある時の防備に備えていたと云われています。

元々あった上京，下京の複数の古町組が，新しく増えてくる新町組を傘下に取込んで，町組の組織はどんどん大きくなっていき，江戸時代末期には上京十二，下京八の大きな町組に編成されていきます。一つの大きな町組は数十町の前，新の町から出来ており，それが一つの地域にかたまっているのではなく，各町組及び各町が網の目のように錯綜して，モザイク状に存在していました。本能学区の区域でも八つの古・新町組に分かれていました。

明治政府になって教育行政を推進して行く上で，小学校の設立が重要な課題となってきました。錯綜した町組をベースにしていたのでは均等な教育が実施できないと考えられ，古町，新町の差別も取払い，平均 26～7 町前後で一学区 = 一町組を構成し，その区域ごとに一小学校を設立する案を京都府がまとめます。ここに上京三十三，下京三十二の新たな町組 = 学区が成立する事になります。本学区は下京二番組と称され，明治二年，日本最古の六十四番組小学校の一つとして発足します。この時，本能校の校地も校舎も地元民の絶大な協力のもとに設立されます。本来何百年も続いた町組を分解再編成する等という事は至難のわざであったのですが，新制度に対する行政と市民との並々ならぬ熱意が然らしめたものと思います。尚，当学区が中京区になるのは昭和四年の市制改変以後からです。

各町内が持っている自治の伝統と，よりよい町を造って行こうとする市民の，先人から受け継いだ熱意が，本能学区のなりたちの基本にあると考えています。

参考文献：『京都の歴史』（発行/京都市史編さん所（1971 年））

(2) 本能学区のまちづくり資源



越後神社



青い目の人形



長尾邸跡



織田信雄古蹟



空也堂



稲荷神社



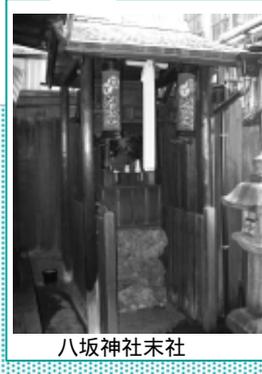
藤堂高虎屋敷跡



ちんちん電車



道祖神



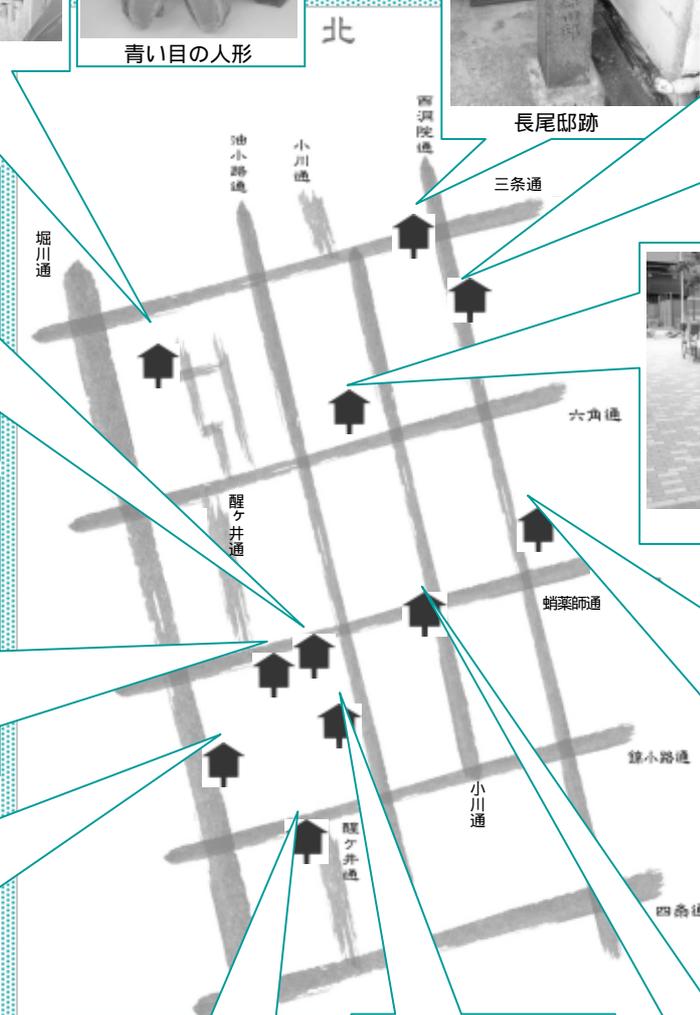
八坂神社末社



肉桂水の井戸



本能寺跡



本能学区

延暦13年京都に都が遷されてから開けた所で、左京永昌坊の第二坊に属し、主として貴紳の邸宅に当てられていた。今日まで史実に照らし数々の史跡を多く蔵している。東は西洞院通をもって元明倫学区に、西は堀川通をもって元乾学区に、南は四条通をもって元格致学区に、北は三条通をもって元城巽学区と境している。東西420m、南北651mの矩形をなし、24ヶ町からなっている。

本能寺跡 蛸薬師通小川角

天文5年(1536)伏見宮貞敦親王王子日承によって、西洞院と堀川の間、四条坊門の北に再興された。当時は34余の塔頭境内子院に囲まれていた。天正10年6月2日、織田信長を攻めた明智光秀の兵火にあい一山の堂塔を失った。後に信孝が、父信長の廟を建てるために、本能寺は、再度この地に復興をみることとなったが、豊臣秀吉の区画整理により、東京極(今の寺町)の三条坊門(今の御池南の地)に移された。

道祖神 醒ヶ井通錦下ル

道路を守り悪気・邪気をさえぎり防ぐ神。賽神・幸神・障神・賽大神・道神・ちまたの神などとも書かれ、複雑な性格をもつ。多くは石をもって象徴し、路に座して悪霊を防ぐ威力を持つ神とされている。村境や峠や道の辻などで外から入ってくる悪霊を防ぐ意味と同時に、生者と死者、人間界と幽冥界の境をつかさどる神の意味である。

青い目の人形(メリー・シュネイラー)

昭和2年、日米両国の親善を願い、1万2千余りの人形が日本の子供たちに贈られた。当初京都には262体送られたのが現在3体しか残っていない。本能小学校の青い目の人形(メリー)さんは雛人形と一緒に保存され、毎年、お雛祭りの時に飾られていた。しかし、どういう身の上の人形かは戦争が介在したため十分に伝えられず、またそのために当時の資料は殆ど残されていない。今現在は高倉小学校に保存してある。

越後神社 六角通油小路西入上ル

この辺りは明治時代より青山屋敷という名称があり、その屋敷跡の総坪数は1340坪で庭園には300坪程の大池があり、島には福鷹竜神、周辺には福德稲荷大明神が武家時代より祭られていた。写し友禅の創案者である広瀬治助(備治翁)が青山屋敷跡に工場を建てて豊富な水量を水洗に利用していたため池水は京友禅発祥の泉と言って過言ではない。昭和10年頃より水位も下がり全く水も湧かなくなり、埋め立てて土地に変わった。昭和25年に島であったお宮のところに池辺のお宮を移動させて並祀、昭和35年に越後神社を建立した。

蟻螂山 西洞院通四条上ル

中国は梁の時代の詩文集「文選」にある、「蟻螂の斧を以て隆車のわだちをふせがんと欲す」という言葉に着想し、御所車にカマキリを乗せて巡行したのが始まりといわれる。別名「カマキリ山」。カラクリ仕掛けで、カマキリの手鎌と羽根と首がユーモラスに動き、御所車の車輪が回る。

空也堂 蛸薬師通油小路西入

正しくは紫雲山極楽院光勝寺と号し、天台宗の寺で俗に空也堂という。創建は、天慶元年(938)、空也上人によってなされたといわれる。上人は市中に疫病が流行したとき、薬湯の茶を病人にあたえて救ったと伝えられる。上人の弟子定盛はその遺風を伝えて茶筌を作り世に広めた。これが「王服茶筌」の起こりである。「空也の踊念仏」といわれる空也忌は毎年11月13日にここで行われる。

稲荷神社 蛸薬師通油小路西入

現堀川高校は戦国大名藤堂高虎の下屋敷があったところで、その鬼門に祭られていた稲荷神社と町内の二社と合わせて三神(藤堂家の民部稲荷、亀屋町内の龍田稲荷、四坊堀川町の御福稲荷)として祭られている。

長尾邸跡 三条通西洞院西入

長尾郁三郎は、幕末の勤王方の御用商人で、勤王の志士たちに莫大な資金援助をなし、幕府よりとがめを受けて、元治元年(1864)に殉死する。

肉桂水の井戸 西洞院通蛸薬師上 和田様宅内

この地は、古くは、後鳥羽上皇御所のあったところで、のちに三井両替商の本拠地となった。当家は戦後同家よりその一部を譲り受けて現在に至る。この井戸の水はニッキ(シナモン)の味がしたといわれ、名井「肉桂水」とよばれ織田信長も好んで茶を喫したと伝えられている。なお、この付近に戦前まで大きな自然池があり、信長首洗いの池とも伝えられ、また「池須町」の町名の由来ともなっている。

この学区には、古来数々の名水があり、茶湯に供されてきた。今は現存しないが、記録に残っているものを拾ってみると…。柳の水(柳水町東側)、富樫の水(四条坊門堀川西類)、小井(橋東詰町南側)、醒ヶ井(三文字町古田織部正宅内)などがある。